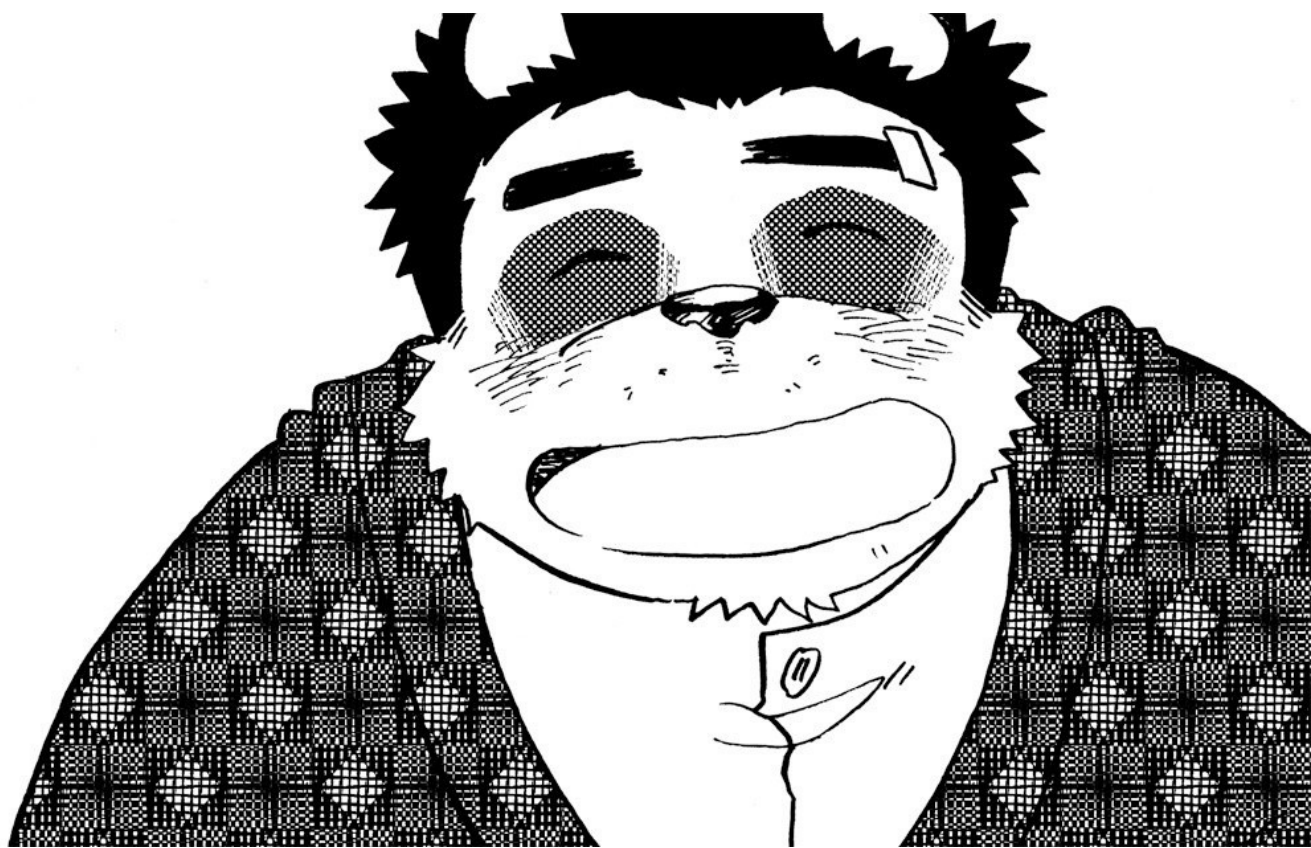
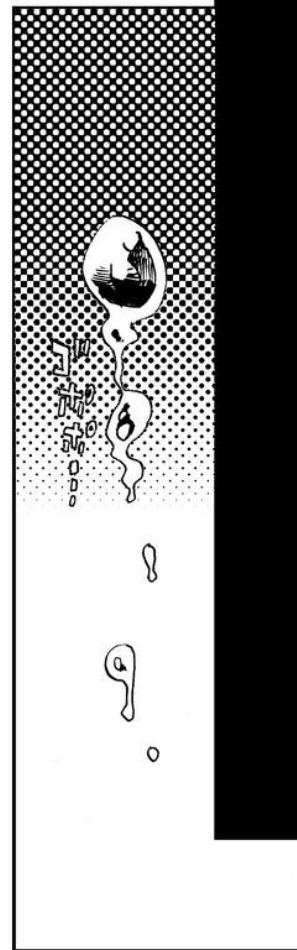
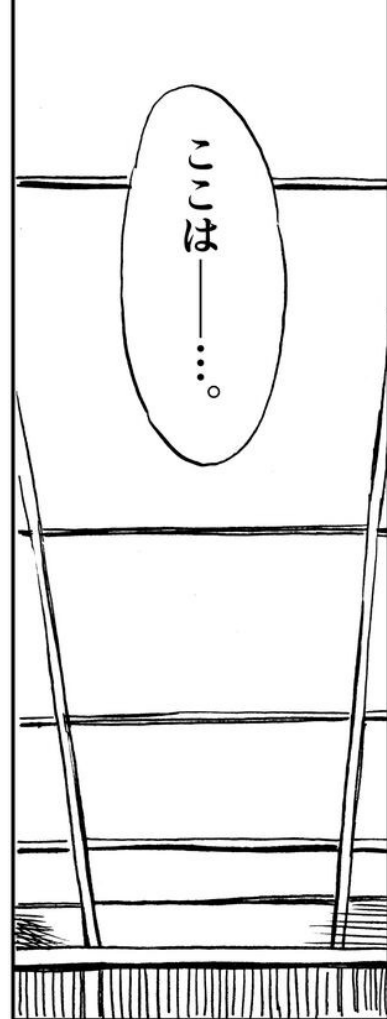
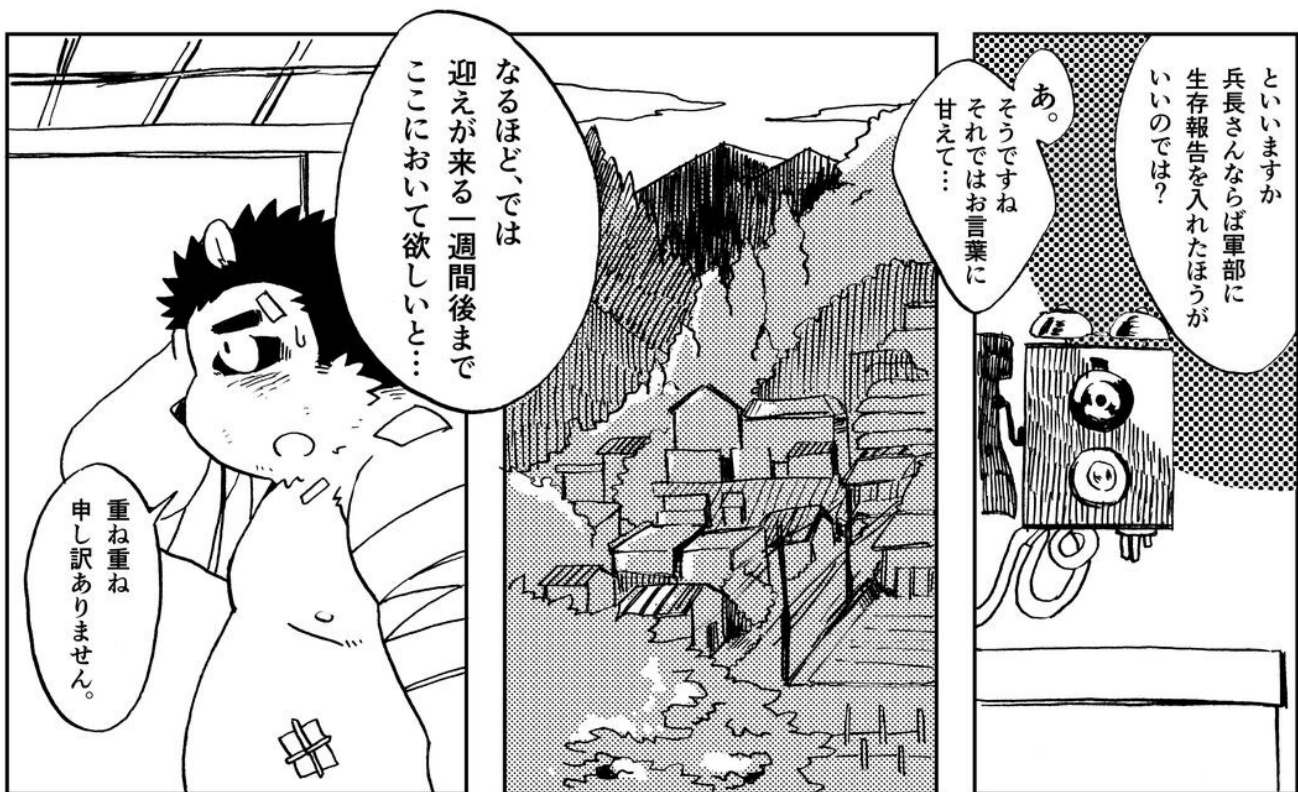


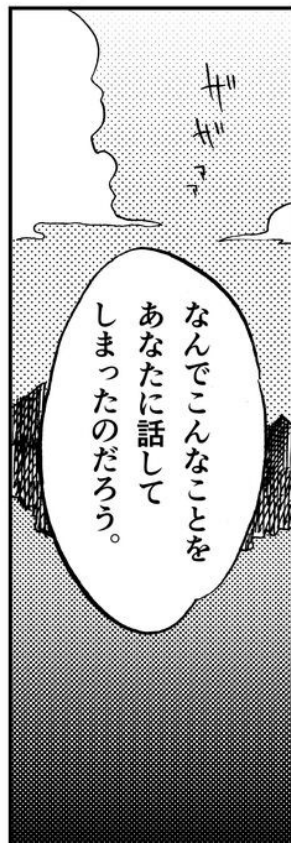
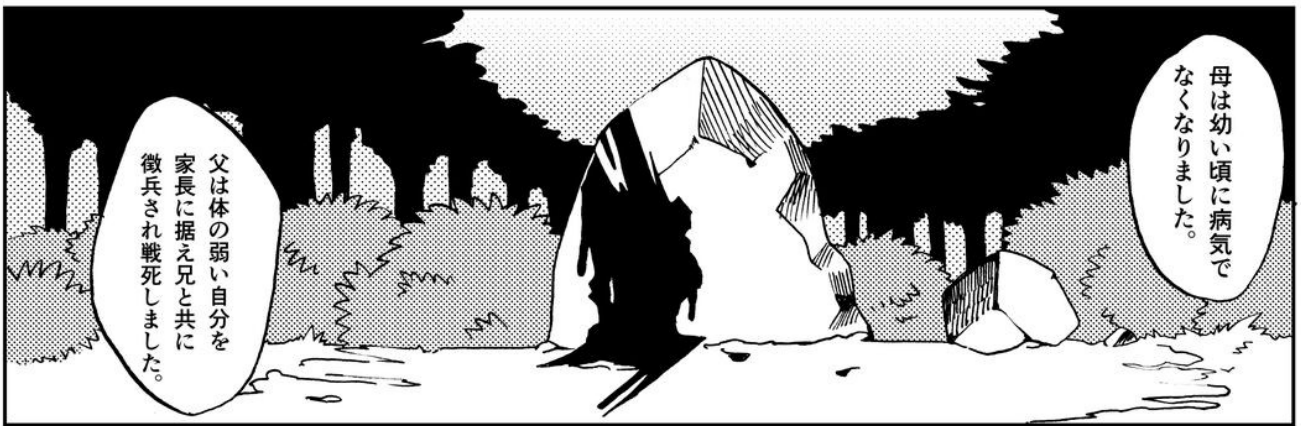
俺は惚れました。

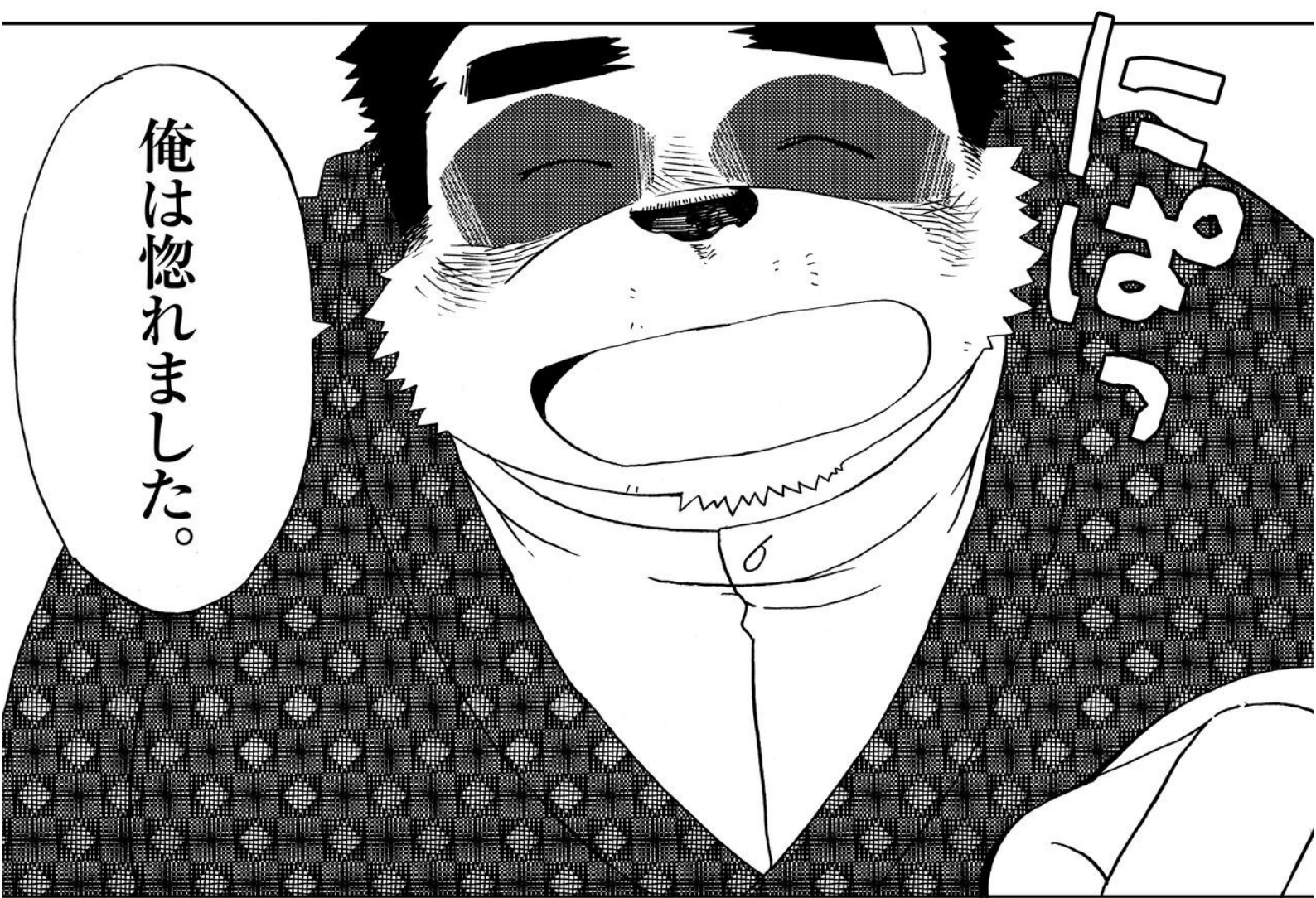
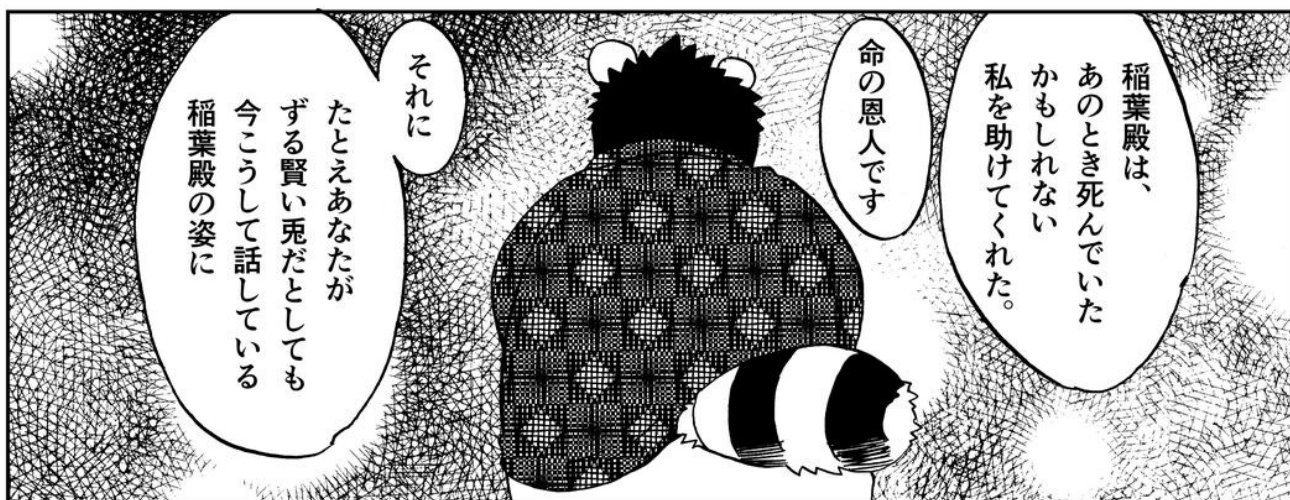


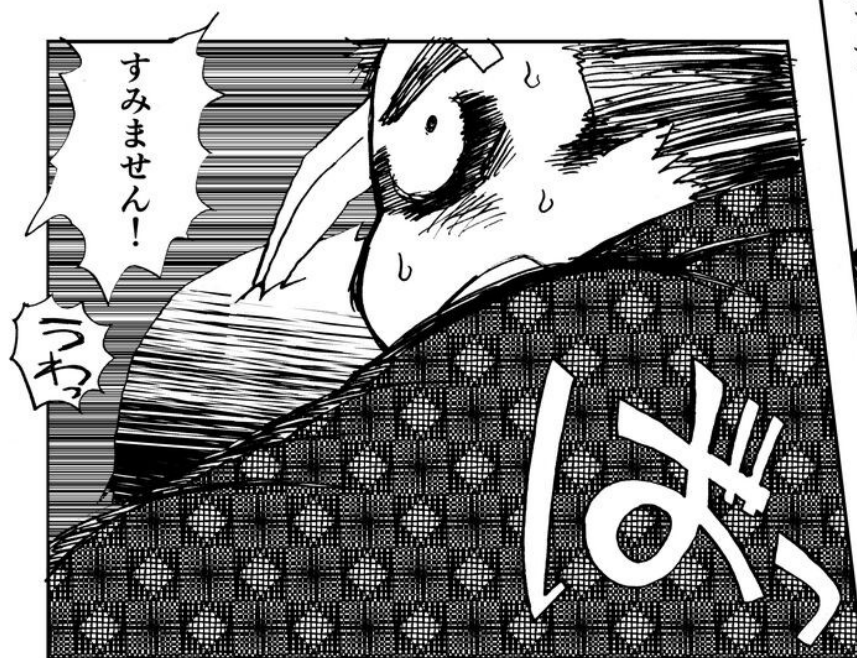


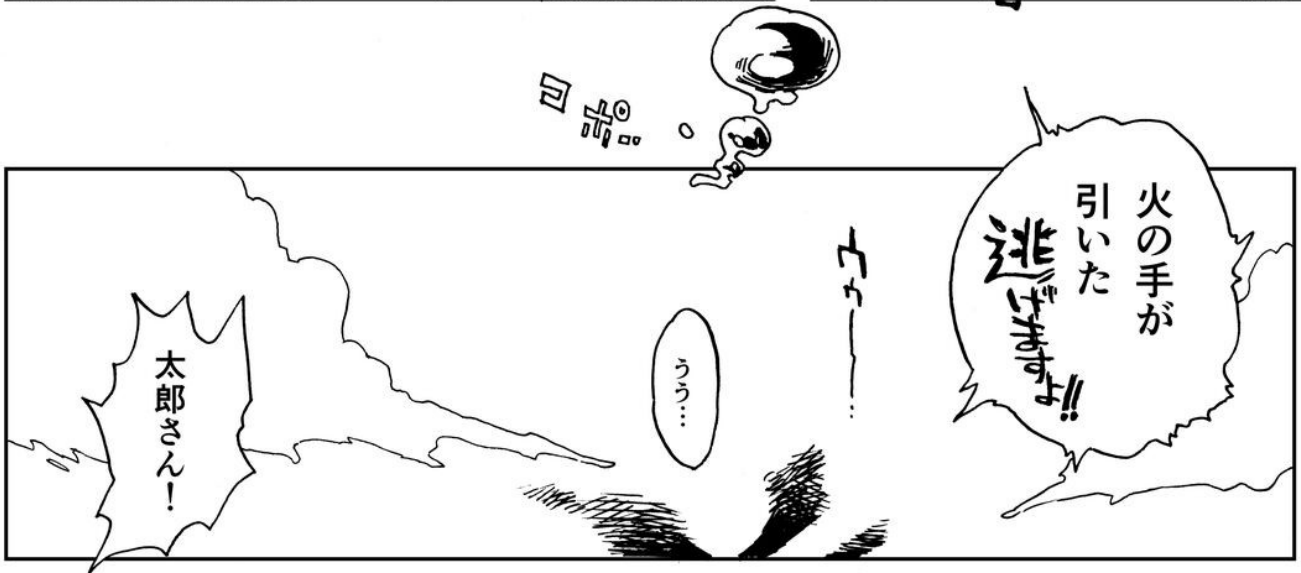






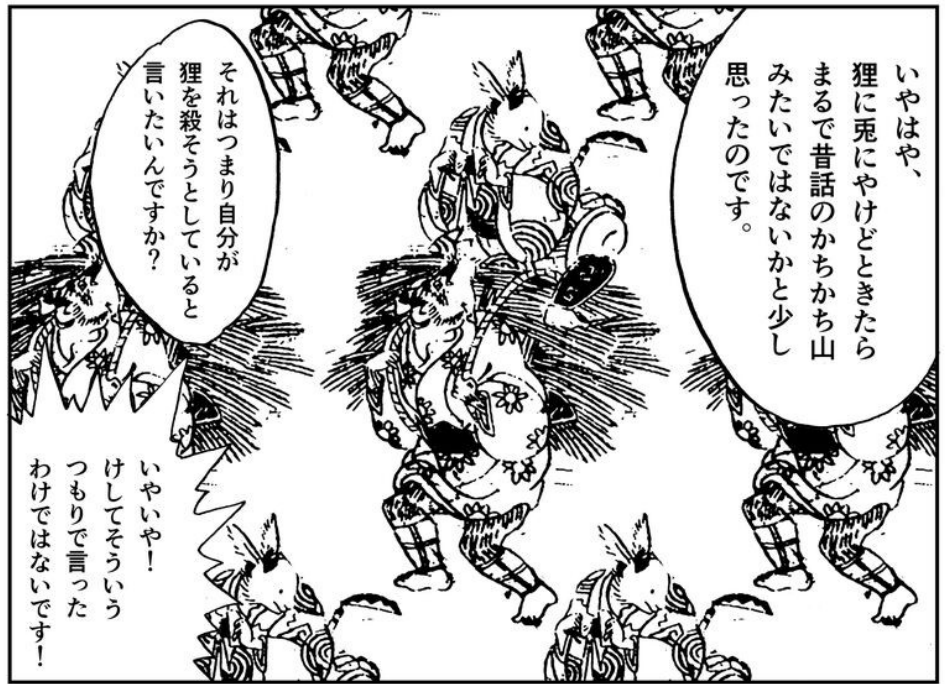








つまり…



いやはや、
狸に兎にやけどときたら
まるで昔話のかちかち山
みたいではないかと少し
思ったのです。

それはつまり自分が
狸を殺そうとしていると
言いたいんですか？

いやいや！
けしてそういう
つもりで言った
わけではないです！



こうして稲葉殿に
すきなひと
介抱してもらえるなら
やけどすることも

悪くないでは
ないですか。



なんですか
それは

ああ…そうか。

ははは



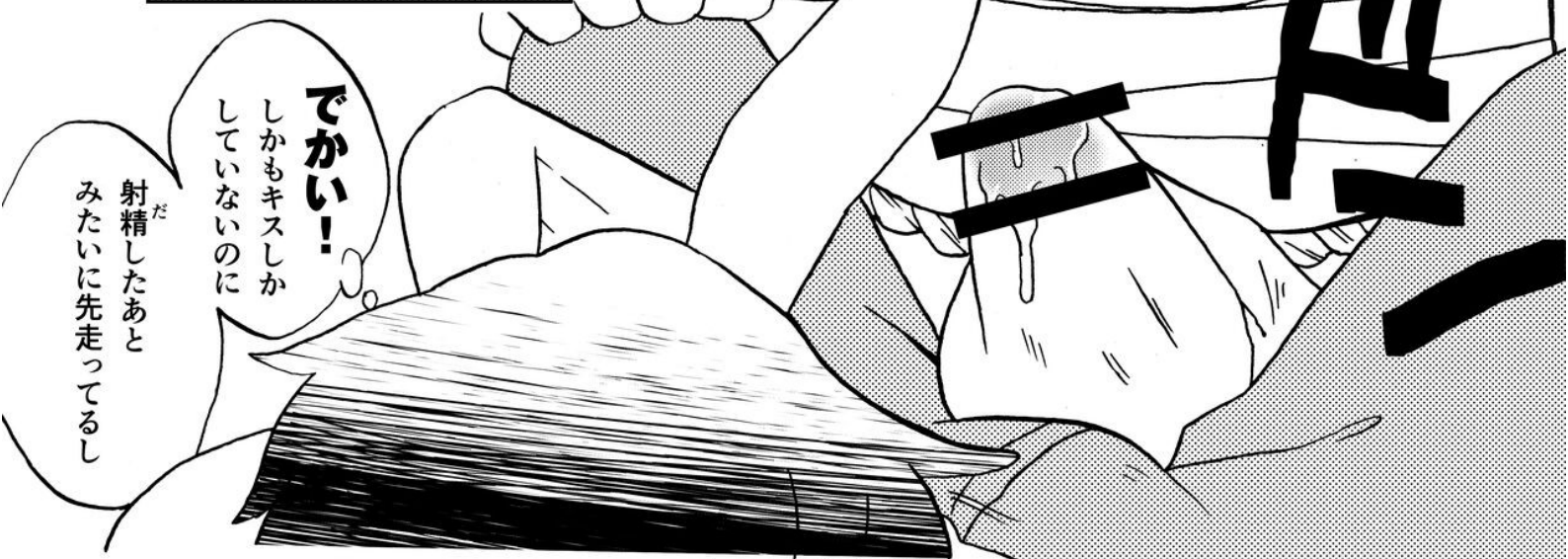
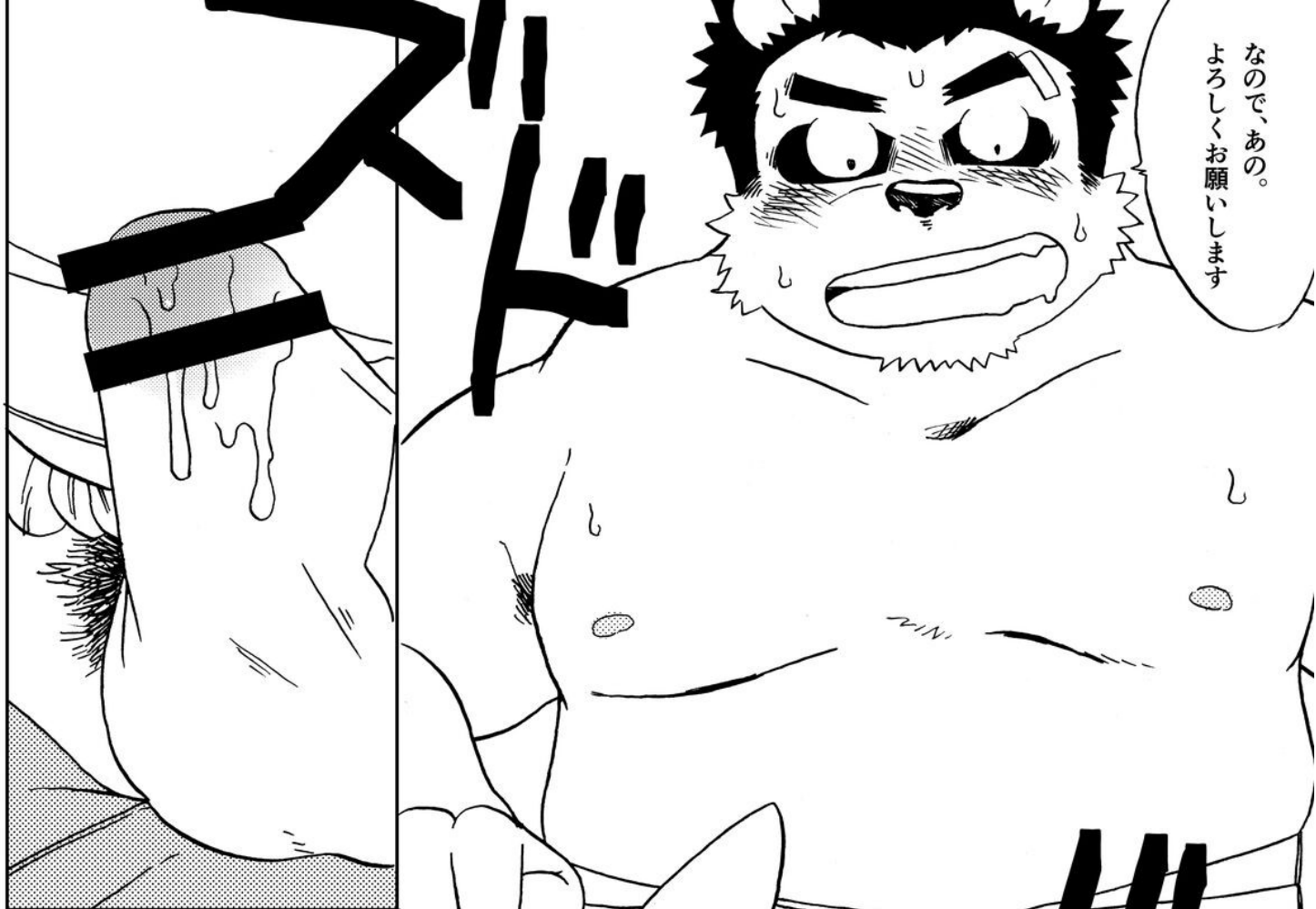
におい。晴太殿の匂い…

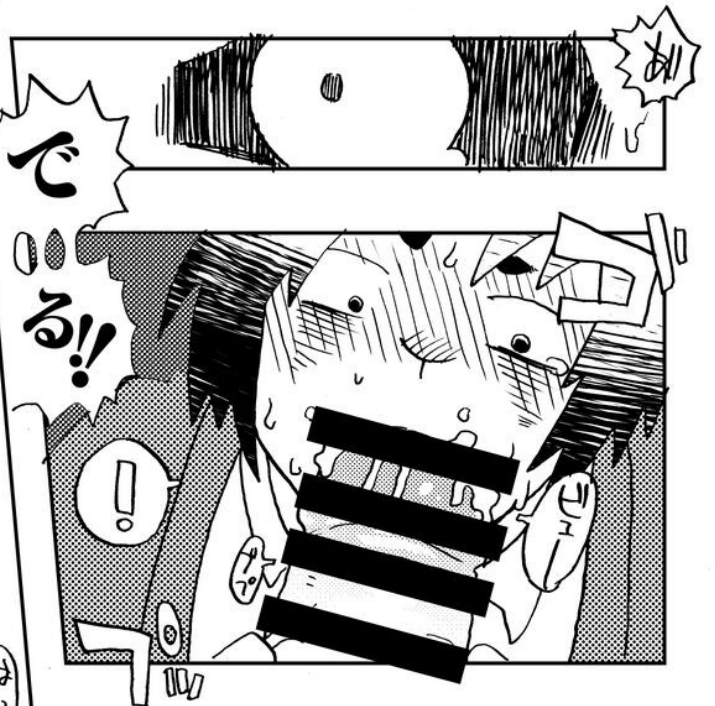
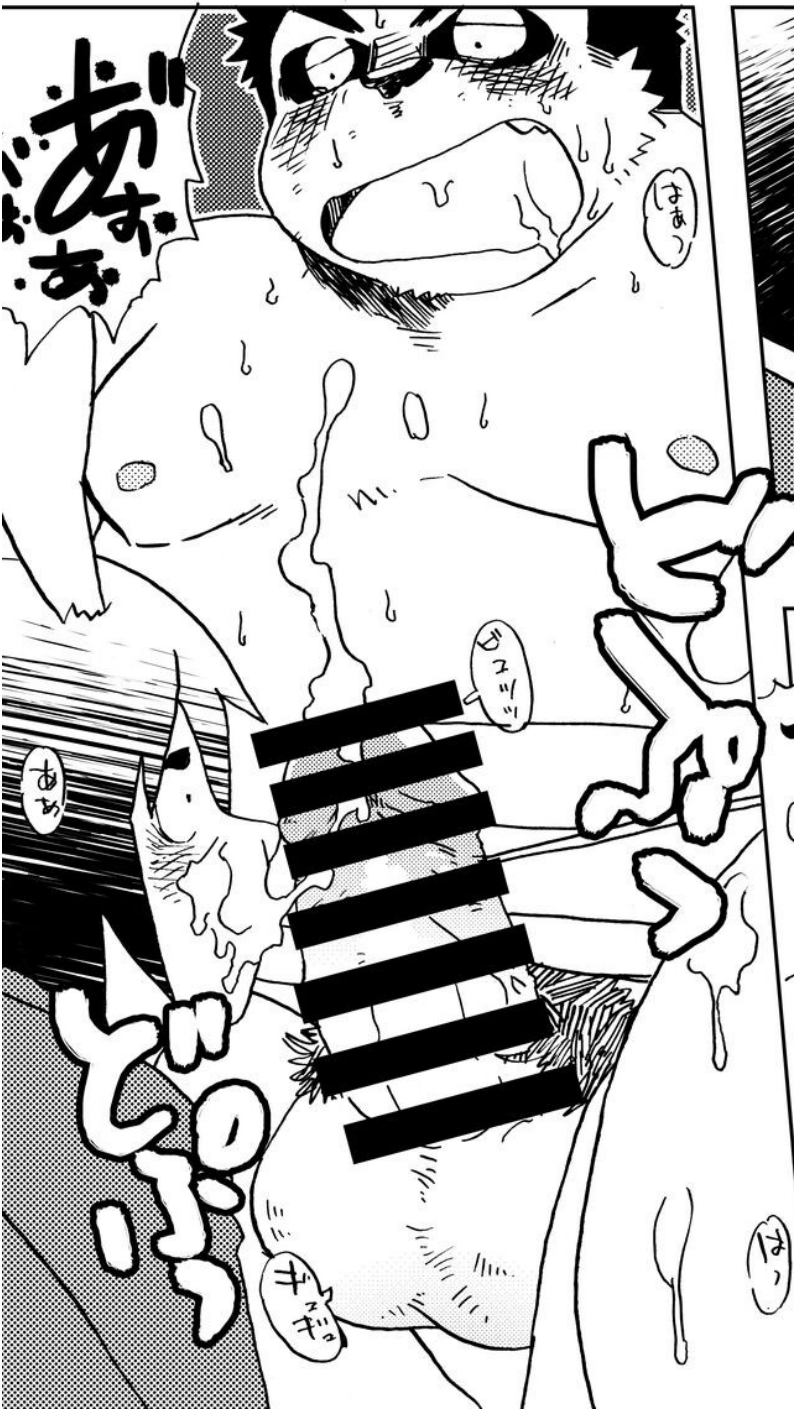


少し煙草の香りがする、唾液の味。

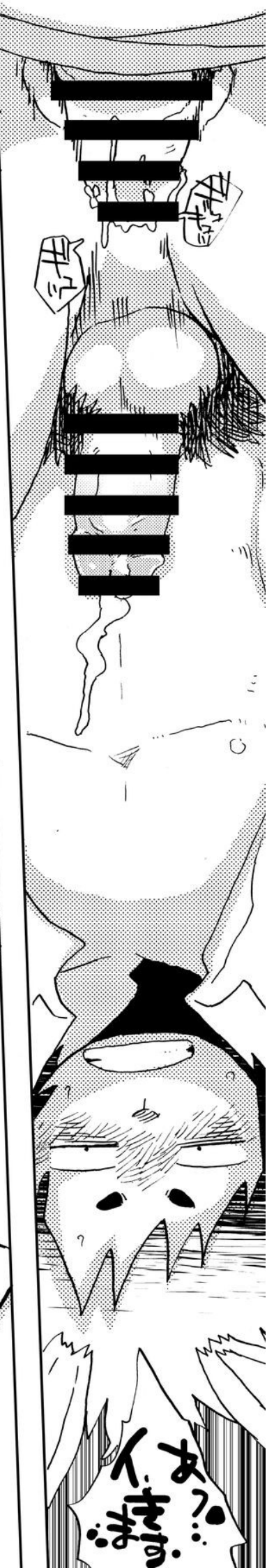


なので、あの。
よろしくお願いします









—— 出立前日。

明日、私は
第五潜水艦隊

回天組特攻隊長
として戦地へ
向かいます。

え？

特攻隊長って
それじゃあ
あの電話は…

いえいえ

もともと
こうなる決まり
でしたたので

ばか

はは

本当に
かちかち山の狸の
ように自分から
泥舟に乗るつもり？

惚れた人の世界
を守れずに
おくに

何が帝国海軍兵長を
名乗れますか。



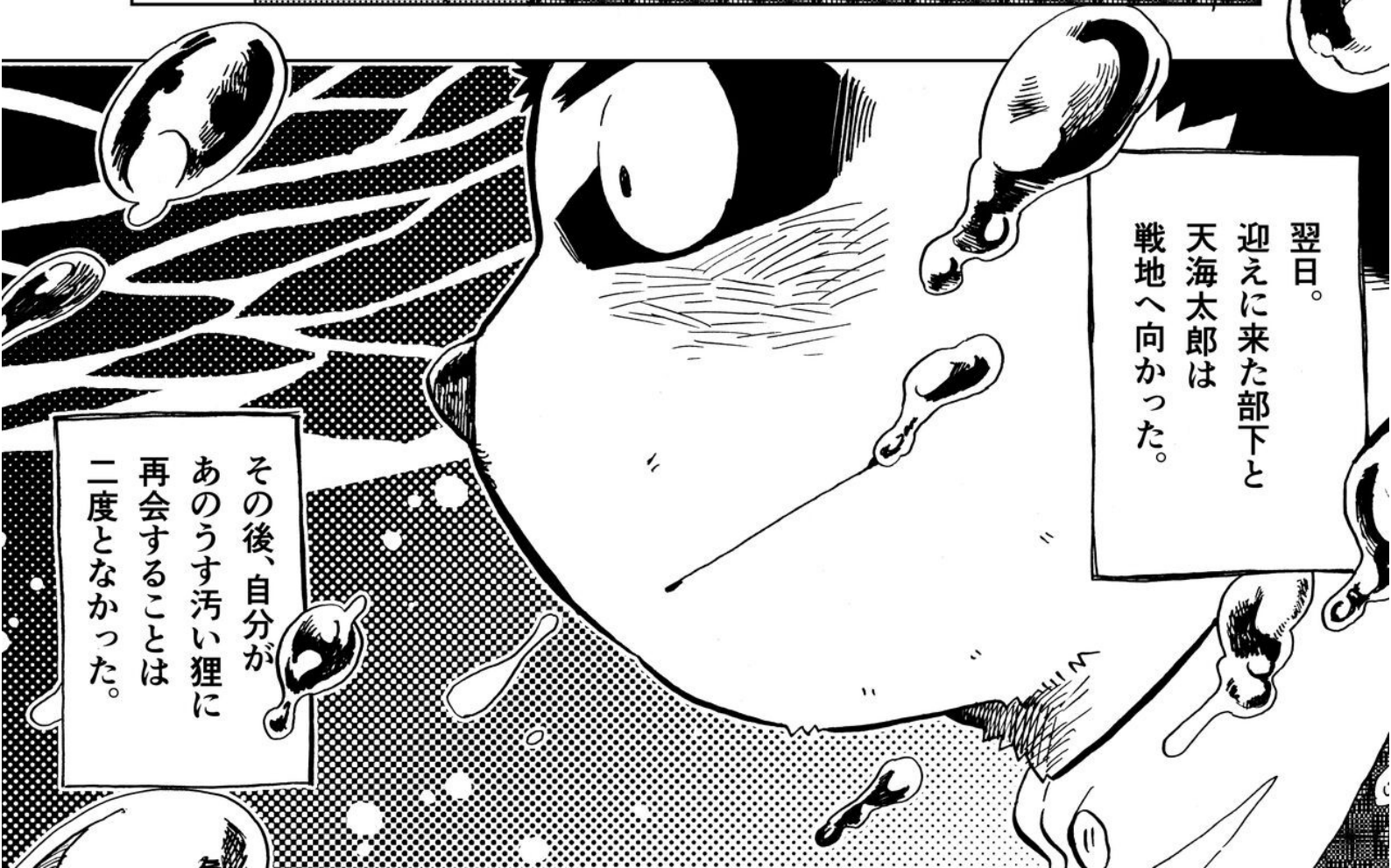
心配も、介抱も
まるで何も全部
損じゃないか。
本当に大損だ！

ふふっ
あなたは
心の優しいひと
ですものね。



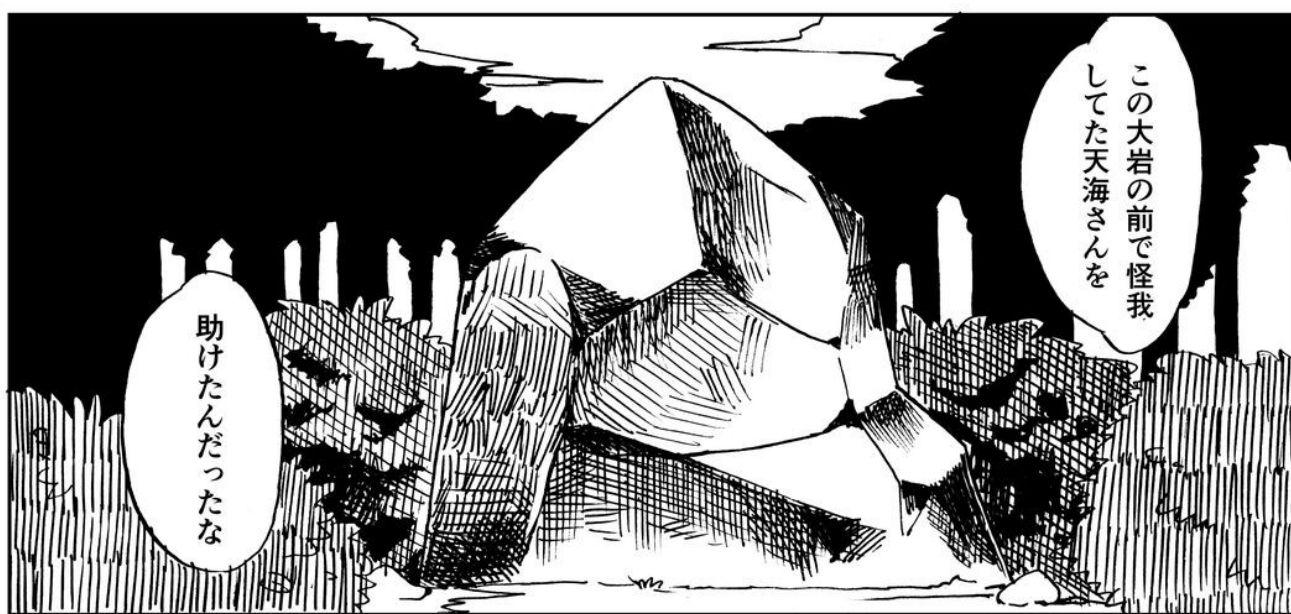
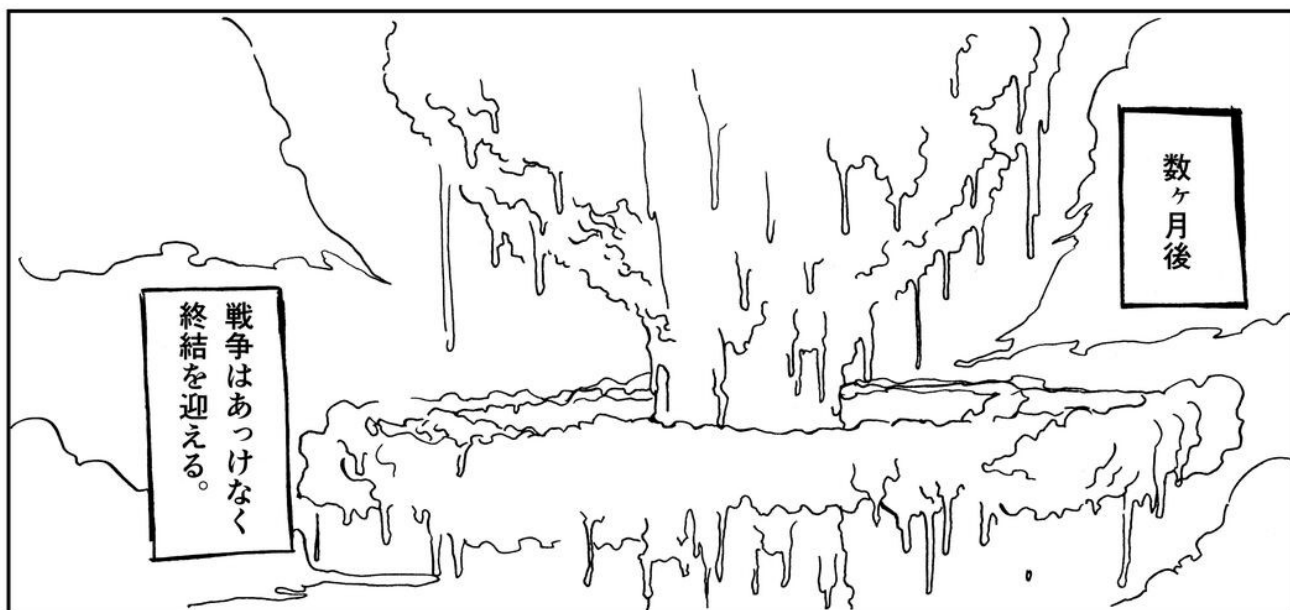
稲葉晴太さん
俺は本当にあなたが
好きでしたよ。

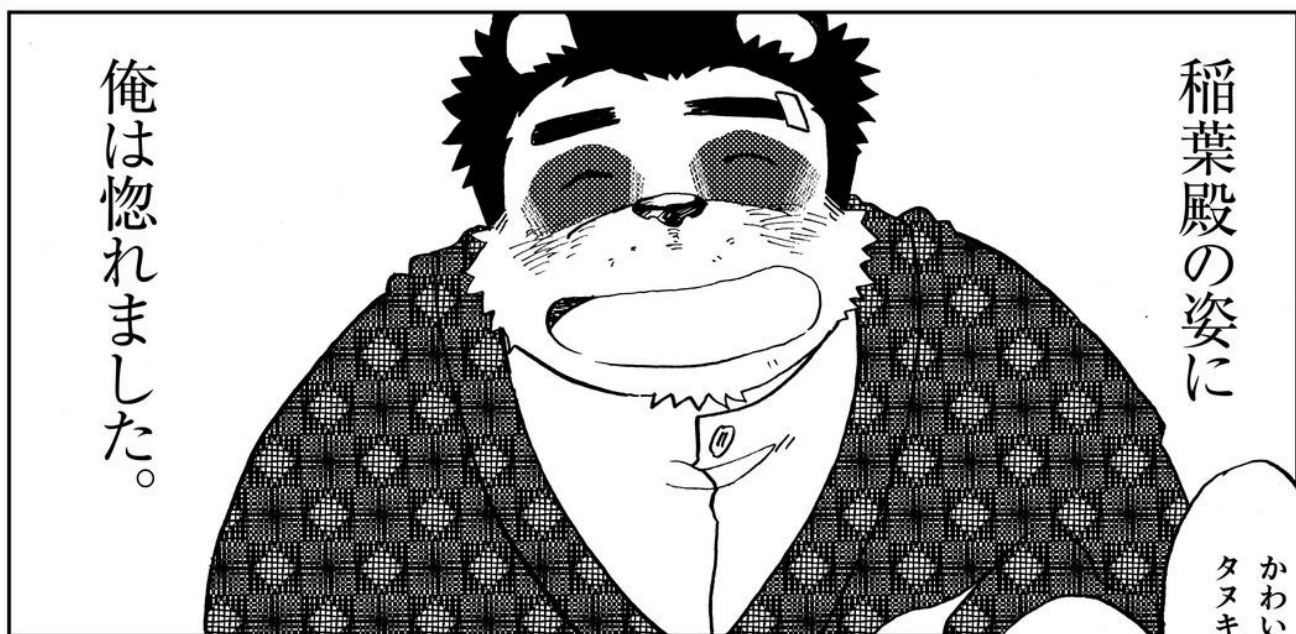
さようなら。



翌日。
迎えに来た部下と
天海太郎は
戦地へ向かった。

その後、自分が
あのうす汚い狸に
再会することは
二度となかった。





かわいそうな
タヌキさん。

本当はほんの少しだけ
大好きだったよ。



さようなら。



——異説日本懷古噺 かちかち山——
完